（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	訪問支援ケ・セラ			
○保護者評価実施期間	2026年　8月1　日	～	2026年　8月　30日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	4	（回答者数）	2
○従業者評価実施期間	2026年 9　月　1日	～	2026年9　月　15日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	2	（回答者数）	2
○訪問先施設評価実施期間	2026年　8月　1日	～	2026年　8月　30日	
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	3	（回答数）	3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　9月　17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所を利用している児童を対象として訪問支援を実施しているため、事業所での様子や家庭での様子、これまでの支援経過、児童の特性等を十分に把握した上で訪問することができる。	事業所での支援状況や保護者から得た家庭での様子と、訪問先で見られる集団生活での姿を照らし合わせながら、児童の困りごとや環境による違いを多角的に捉えることを意識している。	訪問先で得られた情報や有効であった支援方法を事業所内でも共有し、個別支援計画や日々の療育へ反映することで、通所・家庭・訪問先で一貫性のある支援のさらなる充実を図る。
2	専門的な知識・経験を有する訪問支援員が訪問を担当しており、児童の発達特性を踏まえた専門的な視点と、保育現場での勤務経験を活かした双方の視点から支援を検討することができる。	児童個人への支援だけでなく、クラス全体の状況や集団活動の流れ、訪問先職員の支援体制等にも配慮し、訪問先の負担にならず日常の保育の中で実践しやすい支援方法を一緒に検討することを心掛けている。	発達支援に関する知識の向上を継続するとともに、訪問先職員との意見交換を重ね、それぞれの専門性や経験を活かした支援方法を検討できるよう連携を深めていく。
3	訪問時の観察だけでなく、訪問先職員との情報共有や意見交換を行い、児童が日常生活を送る場で実践できる支援方法を一緒に検討している。	訪問後には児童の得意なことや困りごとの背景を共有し、必要に応じて具体的な関わり方や環境調整等を提案している。また、訪問先から得た情報についても事業所内で共有し、その後の支援へつなげている	訪問時だけの連携とならないよう、必要に応じて訪問先との継続的な情報共有を行い、児童の成長や環境の変化に応じて支援方法を見直せる関係づくりを進めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在、訪問支援を担当できる職員が限られており、訪問支援員に業務が集中しやすい体制となっている。	訪問には児童の発達特性への理解に加え、訪問先との連携や助言等を行うための知識・経験も必要となることから、担当できる職員が限定されている。	訪問内容や支援方法を事業所内で共有し、訪問支援に必要な知識や視点を他職員も学べる機会を設けるなど、将来的に訪問支援を担える人材の育成について検討していく。
2			
3			